

日本の国際貢献

1991年の湾岸戦争後、海外派遣への強い反発を受けながらも、自衛隊がペルシア湾の機雷撤去に派遣された。1992年の宮沢喜一内閣時にPKO協力法が制定され、自衛隊の海外派遣が法的に可能になった。カンボジアでの初の国連平和維持活動以降も、自衛隊は活動参加を継続し、国際社会への人的な貢献をおこなっている。

○国際貢献のあり方

●湾岸戦争と海外派遣

<第1・2海部俊樹内閣 | 1989年8月~1991年11月>

1991年、湾岸戦争

…1990年、イラクがクウェートに侵攻したことに、国際連合が武力制裁を決定

…アメリカなどの多国籍軍が派遣され、イラクがクウェートから撤退

…日本は国際貢献を求められ、多国籍軍への多額の資金援助を実施

too little too late—少なすぎる、遅すぎる

湾岸戦争時、アメリカからの国際貢献の要請に、日本は10億ドルの支援をおこない、以後外圧に押されて30億、90億ドルを供出した。日本の対応は「血と汗のない貢献」「小切手外交」など、アメリカを中心とする西側諸国の批判の的となった。これを背景に、湾岸戦争後は海上自衛隊がペルシア湾に派遣され、最も困難で過酷な一帯の機雷除去にあたった。諸外国の軍隊が見守る中、そして国内からの派遣反対を受ける中、自衛隊は掃海任務を果たした。この派遣は、以降の平和維持活動参加への歴史的転換になった。



●PKO協力法の成立と初のPKO参加

<宮沢喜一内閣 | 1991年11月~1993年8月>

1992年、⁽¹⁾ _____ (_____) 制定

…国連の要請の基づいて自衛隊を海外派遣するための法律



1992年、自衛隊がカンボジアでの国連平和維持活動(PKO)に参加した。

⇒以降、自衛隊は海外派遣を継続している。



図1 道路補修の協力

●初の国連平和維持活動参加

<小渕恵三内閣 | 1998年7月~2000年4月>

1999年、⁽²⁾ _____ 制定

…周辺事態安全確保などの3本の法律で、日本の安全に関わる事態の発生時、

日本がアメリカ軍を支援する仕組みを整理